

## 告知した上で 全員マスク装着も 大切なことかも

寒さのピークを迎える2月になり、毎年恒例ではありますが巷ではインフルエンザが流行しています。不特定多数の人が出入りするパチンコ店では、予防処置として「うがい」と「手洗い」の徹底をホールスタッフの方々に義務付けていることと思います。最近の量販店では、接客担当の店員さんがマスクをつけて接客していることも珍しいことではなくなりまし

た。これはお客様からの感染や従業員間のインフルエンザの流行を避けるための予防処置として、健康な従業員もマスクをつけて勤務するというものです。少ないホールスタッフで運営しているパチンコ店においても、インフルエンザがピークを迎えるこの時期には、POPなどで告知した上で全員マスクを装着して勤務することも一案かと思えます。

### エレコ「赤ドン雅」に ART誘発ゴト 他への広がり要注意

さて、昨年から何度もお伝えしているユニバーサル系スロットのART誘発ゴトですが、先月はメーカー対策部品の取り付けの不具合について注意をお願い致しました。そんな中、今度はエレコ「赤ドン雅」にてART誘発ゴトの被害情報が入ってきております。筐体左下の灰皿付近（筐体左下パネルフック部分）からセルを挿入した際に付いたと思われる傷が複数の店舗で発見されており、「緑ドンE」でも頻発した手口と同様のようです。「緑ドンE」と同様の手口でゴトが出来るということであれば、まだまだ色々なパターン

の手口で被害が発生する可能性が高いので、設置店舗におかれましては十分に警戒の程、宜しくお願い致します。（写真1）

### 「遊技の足しにする」 持ち込みゴトは あちこちポケットに

それでは、今回のメインテーマ「他店玉・他店メダルの持ち込みゴト」について説明していきます。

# ゴトに勝つ 高石隆一

## 持ち込みには刻印チエックと 遊技台の確認でかなり防げる

「他店玉・他店メダルの持ち込みゴト」は、一年を通して発生しているゴトではありますが、特に冬場に被害が多発する傾向にあります。冬場に被害が多発する理由として、寒い季節になると厚手のジャンパーなどを着ることが多くなり、多量の玉やメダルを隠して持ち込みやすくバレにくくなることとがあげられます。



写真1 赤ドン セル挿入箇所



持ち込まれる玉やメダルは、廃業したホールのものやインターネットなどで格安に購入したものが多く、そのほかには、1円パチンコや5円スロットなどの低貸し営業店から盗んできたものが持ち込まれています。

他店玉ゴトには、主に「遊技の足しにすること」を目的とした犯行と、「遊技をせずに即景品交換」を目的とした犯行に分けることができます。

「遊技の足しにすること」を目的とした犯行の場合、単独犯によるものが多く、他店玉をジャンパーのポケットや煙草のケースに隠して店内に持ち込み、遊技をしながら他店玉を少しずつ使用し、被害は数百〜数千発程度というのが一般的なパターンです。他店玉を隠して持ち込む煙草のケースには約100発入り、過去にあった事例では、ズボンやジャンパーのあちこちのポケットに、煙草のケース20箱（約2000発）を隠し持つて犯行を繰り返している輩がいました。

ホール側がゴトに気付いて警察に通報して逮捕されたから良かったのですが、仮にゴトに気付かな

写真2 他店玉 取り出した瞬間



かったら玉の補充を何度も繰り返されて、被害は数万発に上っていかたかもしれません。

## 「即景品交換」は複数犯が多く 多量の玉を二瞬で

「遊技をせずに即景品交換」を目的とした犯行の場合、複数犯によるものが多く、持ち込み方法も釣り用のベストやジャンパーなどを改造して一回で多量の玉が持ち込めるようにして、持ち込んだ玉を一瞬で玉箱に移し、あつという間に玉箱を満杯にさせて、何度も同様の手口を繰り返すことで、短時間で被害が数万発になってしまいます。

このように他店玉を持ち込むゴ



写真3 改造したベスト

トには、「単独犯」と「複数犯」による犯行が確認されていますが、今回は短時間の犯行で被害額が大きい複数犯の手口を、過去の事例を元に説明していきます。

他店玉の持ち込みゴトのグループは、5人から10人程度で犯行を行う場合が多く、入店から退店までたった10分程度で1万発から5万発もの被害が出てしまいます。中には10万発規模の被害が出たケースもあります。

持ち込みゴトのグループは「持ち込み役」「玉の受け取り役」「見張り役」「交換役」など、あらかじめリーダーによりそれぞれの役割が分担された上で店内に入店してきます。入店後、リーダーの指示に従って空台を確保し、玉の受け渡しが行えないようにその島の両端に見張り役を配置します。見張り役からの指示に従って、持ち込み役は改造したジャンパーなどに隠し持った他店玉を空箱に移しま

すが、その犯行時間はたったの2〜3秒で、一瞬で玉箱が満杯になります。

## 大丈夫とみれば車から玉を補充して 何度でも繰り返す

満杯になった玉箱は、最初に確保した空台に置き、何度も犯行を繰り返して玉箱を積み重ねて、積み重ねた玉箱には店舗で使用している札を勝手に挿します。ある程度玉を積んだ後、交換役を残してゴトグループは退店し、残された交換役は、遊技することなくスタッフを呼び他店玉を交換して犯行が終了します。

この時ゴトグループが、このホールはまだまだ行けると判断した場合、持ち込み役のジャンパーに隠し持った玉が無くなると一旦退店し、外で待機している仲間の車に行き、玉を補充して店内に戻り再度犯行を行います。その行動を繰り返されると被害が拡大してしまいます。

ゴト車両は店舗駐車場にあるとは限りません。何度も補充を繰り返す悪質なゴトグループの場合、





他店玉の被害に遭う場合、閉店後の誤差玉で被害が発覚する場合がございます。玉の点に注意すれば被害を防ぐ可能性が高くなります。すでに実施している店舗

計数機に流すときも、やたらとあいそよく話しかけてきたら

店舗駐車場の防犯カメラに映ると嫌うために、近隣施設の駐車場や路上駐車している場合が多く見られます。冬の札幌であった事例では、路上駐車していたゴト車両のトランクから下ろされたコンテナが雪山の影に置かれていました。このコンテナには大量の他店玉が入れられていて、店内とこのコンテナ間をゴトグループは他店玉のピストン輸送していたのです。

写真5  
ゴトが残っていた他店玉 コンテナ



この刻印チェックとお客様がどの台で遊技していたか、ということにと意識することによって、ゴト被害が大きく変わってきます。まず、玉の刻印チェックを実施することにより、持ち込みゴトグループの来店率が大きく減ります。これは他店メダルの持ち込みゴトと共通することですが、持ち込みですぐに計数機に流す複数

犯による犯行事例の場合、計数機に流される玉やメダルの全てが他店のものになるので、当然その刻印もすべて他店のものになります。ゴトグループは、計数機に流す際に持ち込んだ玉やメダルが、他店のものであることが発覚するのを一番恐れています。せっかく苦労して他店玉を持ち込んだのにも関わらず、最後の最後で自分達の労力が無駄になってしまうこと、それが刻印チェックなのです。刻印チェックを避けるために、計数機に流す際に、やたらホールスタッフに愛想良く話しかけて、刻印チェックをさせないようにしている挙動がよく見られます。

- ① ホール巡回時には、見慣れない人物の来店やキャッチ行為と感じる質問攻めがあったり、いつもと違う店内の雰囲気を感じたり、ちよつとでも気になることがあったら報告・連絡・相談（いわゆるホウレンソウ）をすること。
- ② 計数機に玉を流す時には、必ず自店の刻印かどうかを確認すること。
- ③ 玉を流しに来た人がどの台で遊技していたかを意識する、または確認する。

お客様がどの台でプレーしているか  
いつも注意を払おう

そして、お客様がどの台で遊技していたかということ意識することは、すべてのゴト防止につながる大切なことです。この意識を強く持って勤務していたホールスタッフは、来店して数分のお客様が三千枚くらいのメダルを計数機に持ってきたので不思議に思い、そ



のお客様に「大変失礼ですが、どちらの台で遊技されましたか？」とお聞きしたところ、メダルを放置して突然そのお客様が走って退店して行ったそうです。防犯カメラの映像を確認したところ、ゴト被害による出玉であることが判明して、計数機にメダルを持ってきたのは交換役だったそうです。刻印チェックと玉を流しに来た人の遊技台番を確認することを実施する際には、必ず計数機付近に出玉の刻印と遊技されていた台番を確認させて頂くことがございますので、お客様のご協力をお願い致します。また、不審者をお見かけの際にはホールスタッフまでご連絡下さい」という内容のPOPを掲示して、ホールスタッフの行動をアシストして下さい。

メダルはバレやすい  
一度遊技機に入れ  
店の玉と交換して

他店メダルの持ち込みに関しては、数百枚単位で持ち込み使用する悪質なものから、常連のお客様が悪意なく数枚を使用するものま



であります。

多くの原因は、常連のお客様による数枚の持ち込みによるものですが、他店メダルを毎日のように持ち込まれ使用されれば塵も積もり、その被害は悪質なものの以上となってしまうます。常連のお客様に対しては他店メダルを持ち込む行為が、例えば数枚であっても窃盗や建造物侵入罪という法律に触れるということを理解してもらうために、見えやすいところに「他店のメダルを持ち込むと窃盗罪にあたります」などの文言を入れたPOPを掲示することで、軽い気持ちでの持ち込みは減少することでしょう。

悪質な他店メダルの持ち込みゴトグループの被害に遭う場合、他店玉と違い即計数機にメダルを流すことはほとんどありません。なぜかという、ホールスタッフが計数機にメダルを流す際、玉に比べてメダルだと刻印の違いがバレやすいからです。では、どのようにしてメダルを交換するかというと、持ち込んだメダルを一度遊技機内に入れ、クレジットが50になると精算するのです。この行為を繰り返すことによって、持ち込んだ

写真6 他店メダル 取り出す瞬間



だ大量の他店メダルをその店のメダルと変換して計数機に流すのです。当然、刻印チェックを実施していないホールで犯行の場合は、持ち込んだ他店メダルをその店のメダルと交換せずに、そのまま大量の他店メダルが計数機に流されます。他店玉の持ち込み同様、このホールはまだまだ行けるとゴトグループに判断された場合は、何度も犯行を繰り返され、万枚クラスの被害が発生してしまいます。他店メダルの被害に遭った場合も、閉店後の誤差メダルで被害が発覚する場合はほとんどですが、他店玉と同様に刻印チェックなどの点に注意すれば被害を防ぐ可能性が高くなります。

刻印チェックを実施するにあたり、一般のお客様が計数機に持ち込んだメダルに、他店メダルが数



写真7 他店メダル コンテナ

枚混じっているケースがとても多く発生します。その刻印チェックで発見された数枚の他店メダルを取り除いて、お客様に説明してから自店のメダルと同枚数交換します。この活動により、常連のお客様による軽い気持ちでの持ち込みが減少することでしょう。

## 持ち込みメダルを どう処理しているか モラル教育も大切

最後に、他店メダルの持ち込みゴトによる二次被害についてお話ししたいと思います。皆さんの店舗において、持ち込まれた他店メダルはどのように管理していますか。他店メダルの持ち込みゴト犯を捕まえてみたら、犯人は近隣のパチンコ店で働いているホールスタッフだったというケースがありました。そのホールスタッフは、自分の勤務するパチンコ店に持ち込まれた他店メダルを持ち出して、それを他店へ持ち込んで遊技していたのです。

調べてみると、持ち込み犯の勤務していた店舗では、発見された他店メダルはスタッフの休憩室に集める場所があり、その他店メダルを使用してスロットの試し打ちが出来るようになっていました。被害に遭った店舗にとって、他店メダルはゴミでしかなく不要な存在です。持ち込み犯のホールスタッフは、他の人もやっていたし、ゴミを持ち出しただけであまり悪いことだと思っていなかったそうです。

モラルの問題なのかもしれませんが、誰でも持ち出せる状態では管理とは言えませんし、さまざまな管理のせいで出来心から悪の道に落ちてしまう人が出るケースはとても悲しいことです。ホールスタッフのゴト対策教育と共に、モラル教育がとても重要だと思います。

■高石隆一 ■たかいしりゅういち 警備会社の指導員、セキユリティー会社を経て2003年、有限会社ジャパン・セキユリティー・サービスを設立し代表取締役。札幌方面遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、札幌遊技業支配人会の顧問を務めるかたわら、パチンコ産業のセミナー講師を数多く務める。北海道警察本部の捜査にも協力している。「一期一会」が座右の銘。